

## か/く/れ/て いるのは なに (1上)

### <本稿の構成>

- I 目標
- II 学習材について
- III 学習活動計画
- IV 本時の学習 (3~5 / 10時)

#### I 目標

- 1 写真と照応させながら、書いてある事柄に興味をもって読み取ることができるようにする。
- 2 時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むことができるようにする。
- 3 「かくれかたずかん」を作るために、書いてある事柄に興味をもって読み進め、すすんで本や図鑑などから情報を得ようとするようにすることができるようにする。

#### II 学習材について

『かくれて いるのは なに』は、子供たちが初めて出会う入門期の説明文である。「問い・答え」の基本文型が入っており、八つの文と九つの写真で虫のかくれ方の特徴を説明している。九つのカラー写真は教科書に書かれてあることをわかりやすく補うという役目をしており、子供たちが楽しみながら教科書本文と写真を結びつけて読み、説明文を学習できるよう工夫されている。また、問いかけの文章が、教科書の両開きの最後の部分に書かれており、子供たちが興味をもって次のページをめくり、問いに対する答えを、読み進めていけるような工夫もされている。

子供たちは、自分たちの身近な虫のかくれ方に興味をもち、教科書を読み進めていくであろう。その際、「かくれかたずかん」を作るという活動を設定し、一年生なりに「自分の知らなかったことを知る楽しさ」を味わわせたい。この説明文の最終ページには、さまざまな虫のかくれ方が写真で示されており、子供たちがすすんで情報を収集したり、すすんで本や図鑑などを読もうとしたりする活動が生まれるような展開を心がけたい。

#### III 学習活動計画 (10時間)

時間	学習活動	指導内容
第1・2時	○虫を見たり、つかまえたりした経験を話し合う。 ↓ (子供)「虫のことが書いてある。」「虫のかくれ方が書いてあるみたいだ。」 (先生)「虫ってすごいね。かくれじょうずだね。」 (子供)「いろいろなかくれ方を知りたいな。」 (先生)「虫って、どんな時にかくれるのかな？」 (子供)「虫のことをもっとよく知りたい!」「虫博士になりたい!」 ↓ 「かくれかたずかん」を作ってみよう!	●子供たちの虫に関する興味・関心を掘り起こす。  ●相手意識や目的意識を明確にする。  ●目次作りをしながら書かれている事柄の順序をとらえ、学習の見通しをもつ。その際、教科書の写真の拡大版や掛図を用意し、目次の順番を考える楽しさにも工夫を凝らす。
第3時	○「かくれかたずかん」の目次はどんな順に? 目次(順番)……「しゃくとりむし」「このはちょう」という順に。最後には自分の調べたい虫を置く。	●教科書に出ていない虫も調べたりできるように、目次の最後に「自分で調べたい虫や動物」も位置づける。

	表紙……自分の名前も入れよう。 中身（かくれ方）……絵や写真，コピーしたものと 文で。	
第4時	(先生)「まず，しゃくとりむしのかくれ方を調べよう。」 (子供)「どこにいるかわからない!」「かくれ名人だ!」「クイズみたいだ」「問題と答えになっている」	●目次の順に教科書に出てくる虫のかくれ方，その工夫について，順に学習ノートにまとめていく。この学習ノートを束ねて図鑑にする。
第5時	(先生)「このはちょうは，どのようにかくれるのかな?」 (子供)「問題と答えがある!」「きれいな模様だ」「羽をとじると枯れ葉そっくり!」「同じ場所だ。」「枯れ葉にかくれるなんて，かくれ名人だ!」	●段落ごとに，写真と文章を結びつけて読み，楽しく「かくれ方とその工夫」がわかるよう，虫の吹き出しを考える学習シートを用意する。  ●学習シートには教科書本文の言葉に着目できるような工夫をし，枚数が重なるごとに子供が書きこむ部分を意図的に増やしたものを使用する。
第6・7時	(先生)「他にいろいろな虫は，どのようにかくれるのかな?」 ○にいにいぜみ・きのかわが・しょうりょうばった・はますず・ななふし (子供)「教科書には写真しか載ってないよ。」「図鑑で調べたり，知っている人に聞いたりしよう。」「わたしはこうだと思うな。」	●せみやばったなどがなかなか見つけられなかった経験は多いと思われる。そういう経験と，学習材を読んでわかったことを合わせて考えさせる。
第8・9時	(先生)「自分で調べたい虫のかくれ方について調べよう。」	●あらかじめ図書室などから適した本を選んでおく。
第10時	(子供)「図鑑が完成したよ。みんなに読んでもらいたい! もっと調べてみたい! 虫博士に挑戦したい!」	●最後に，自分で選んだ虫の「かくれ方の工夫」(子供の興味によっては動物も可とする)を調べ，図鑑にまとめ，発表し合い，展示する場を設ける。

#### IV 本時の学習 (3~5/10時)

##### (1)目標

○「かくれかたずかん」に載せるむしの順番を考える活動をとおして，事柄の順序と時間的な順序を理解し，これからの学習の見通しをもつことができる。

##### (2)学習過程

学習活動	教師のかかわり
1 「かくれかたずかん」の作り方について話し合う。 (子供)「いろいろな虫のかくれ方を調べよう!」「かくれかたずかんを作るのが楽しみ!」 「かくれかたずかん」を作るには? 表紙……自分の名前も書く。	●「かくれかたずかん」を作るために必要な事柄・条件を考える際，教科書や身近な本に目を向けるよう促す。  ●目次に着目しやすいよう，表紙の条件(使

<p>載せる順番（目次）……虫の名前と順番を決める。 かくれ方……字を書く。絵をかいたり、コピーした写真をはる。</p> <p>2 教科書の写真をもとに、事柄の順序や時間的な順序について学習する。</p> <p>（先生）「このはちょうだけ写真が二枚あるね。同じこのはちょうなのかな？」</p> <p>（子供）「同じ場所だよ。枯れ葉の形がそっくりだ。」「二枚の写真のこのはちょうは同じこのはちょうだ」「羽を広げていたけど、そのあと、羽をとじたんだよ。」「カメラで写した順になっているんだ！」「写真は二枚だけど、目次には一つにまとめていいよね。」「自分で調べた虫も、図鑑の最後に入れたいな。」</p> <p>3 子供たちの興味・関心を大切に、目次の最後に「自分で調べたい虫や動物」を位置づける。</p> <p>（先生）「教科書の虫だけでなく、自分で調べたい動物や虫も書こう。絵もかこう。」</p> <p>表紙例（縦書き）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>かくれかたずかん</p> <p style="text-align: center;">なまえ（            ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●しゃくとりむし</li> <li>●このはちょう</li> <li>●いろいろな    むし</li> <p style="text-align: center;">絵</p> <li>●じぶんで    しらべたい   むしや   どうぶつ</li> </ul> </div> <p>（先生・子供） 「次の時間は、しゃくとりむしのかくれ方を調べよう！」</p>	<p>用する紙の大きさや色、向き）を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●目次を考える活動をとおして、書かれている虫の順番を把握し、これからの学習の見通しをもつ。</li> <li>●教科書に掲載されている写真の拡大コピーや掛図を用いるなど、子供たちの思考を助ける板書を工夫する。</li> <li>●子供の興味・関心を大切に、目次の最後に「自分で調べたい虫や動物」を加える。</li> <li>●図鑑の目次の板書を活用し、次の時間やそれ以降の学習の見通しをもたせる。</li> </ul>
--	--

1 「かくれかたずかん」の作り方について話し合う。（第3時）

（先生）「かくれかたずかんには、どんなことを書いたらいいかな？」

（子供）「字を書いたり、絵を載せたり。」「コピーして張ったりするのもいいよ。」「まだある！ いちばん最初の……（教科書の表紙を指さし）教科書でいえばこれ！」

（先生）「表紙ですね。」

（子供）（子供たちは自分の教科書に目をやる。）「まだあります！自分の名前を書くところ。」

子供たちの考えを一度整理する意味もあり、A4判の白画用紙を表紙に使用する紙として子供たちに提示した。（表紙の紙の色・大きさなどを個々にゆだねる方法もあるが、そこで時間がとり、学習のねらいに到達できないおそれもある。どこまで子供にゆだねるかが非常に大切である。）

友だちの「表紙」という発言から、さらに考えが広がっていく子供たち。「まだ、ほかにもある！」という元気な声。

（先生）「ほかにもある？」

（子供）「目次。」「本の最初のほうにあるやつ？」「そうそう。（教科書の目次を指さして）これこれ！」



(先生) 「(転校した児童のお別れ会のプログラムを示し) プログラムみたいなものですね。本にでてくる順番を載せたものです。」

## 2 教科書の写真をもとに、事柄の順序や時間的な順序について学習する。(第4時)

子供たちは、教科書と対比しながら目次の順番について話し合った。

(子供) 「しゃくとりむし、このはちょう、せみやいろいろな虫の順に書いていけばいい。」「目次もしゃくとりむし、このはちょう、せみやいろいろな虫の順に！」

教科書の拡大カラーコピーを活用し、教科書に登場する虫の順を確認した。

そこで、時間的な順序について学習するために「このはちょう」の二枚の写真に焦点をあてた。

(先生) (拡大カラーコピーを黒板にはって)「このはちょうだけ写真が二枚あるね。同じこのはちょうなのかな？」

(子供) 「この写真のこのはちょうと、この写真のこのはちょうは同じだよ!」「一こまめと二こまめみたいだね。」「かくれていない写真とかくれている写真の二枚を並べるとよくわかるね。」

この話をきっかけに子供たちは説明文全体に目を向け、書かれている事柄に興味・関心を持ち始めた。

## 3 子供たちの興味・関心を大切に、目次の最後に「自分で調べたい虫や動物」を位置づける。(第5時)

「このはちょうの かくれかた」を調べる活動をとおして、「このはちょう」のかくれ方について読み取る。すすんで情報を収集したり、すすんで本や図鑑などを読もうとしたり姿を大切にしているこの学習材の目標と照らし合わせ、「図鑑の最後に自分が調べてみたい昆虫や動物を載せたい」という子供たちの声を生かし、目次の最後に「自分で調べてみたい虫や動物」を加えた。

[資料] 拡大カラー写真2枚

学習シート (縦書き)

このはちょうが います。

□□には、うつくしい □□□が あります。

(写真)

もんだい

このはちょうは、どのように して かくれるのでしょうか。

(このはちょうの写真に吹き出しをつける)

こたえ

このはちょうは、

--

展開例

学習活動	教師のかかわり
<p>1 このはちょうのかくれ方を教科書から見つけ、学習シートに書きこむ。……問いと答えの文型の学習</p> <p>(子供)「このはちょうの羽ってとてもきれいだね」「羽をとじるとこのようになるんだ!」「このはちょうもかくれ名人だ!」</p> <p>このはちょうはどのようにしてかくれるのだろうか?</p> <p>(子供)「羽をとじるんだ。」「二枚の写真は同じ場所だ!」「羽をとじて枯れ葉とそっくりになるんだ。」</p> <p>2 二枚の写真を見比べ「羽を広げていたのに、なぜとじたのか」を考える。</p> <p>(先生)「羽を広げていたのに、なぜとじたのかな?」</p> <p>(子供)「だれかがきたから。」「敵がきたから。」「見つかったら大変!」「見つかったら敵に食べられちゃうかも。」</p> <p>3 このはちょうの吹き出しを考え、交流する。</p> <p>(先生)「このはちょうはどんなことを言っているのかな?」</p> <p>(子供)「敵がきた! 見つかったら食べられちゃう!」「枯れ葉のふりして、どこにいるかわからなくするぞ!」「羽の色は枯れ葉とそっくりだし、形も枯れ葉と似てるでしょ。」</p> <p>(子供)「ただかくれているのではないんだね。」「身を守るためなんだ。」「同じような色の所にかくれるなんて、考えているね。かくれ名人だね。」</p>	<p>●音読や学習シートに教科書本文を試写する活動を設ける。</p> <p>●拡大カラーコピーを活用し、p40・41の写真とp42の写真との違いに着目させる。</p> <p>●敵の存在に目を向けるよう二枚の拡大カラーコピーを比較させる。</p> <p>●吹き出しを、みんなで考えることができるよう板書を工夫する。</p> <p>●学習したことを一人一人がまとめるというねらいで、本時の学習シートの吹き出しを位置づけるようにする。</p>

1 このはちょうのかくれ方を教科書から見つけ、学習シートに書きこむ。……問いと答えの文型の学習

(先生) (二枚の拡大カラーコピーを黒板にはる)

(子供)「このはちょうの羽、すごくきれい!」「(次のページの写真と比較しながら)羽をとじて枯れ葉のふりしてる。」「どこにいるかわからないくらい、かくれ方うまいね。」「かくれ名人だ!」

「このはちょうはどのようにしてかくれるのだろうか?」の問いに対する答えを教科書から探す子供たち。みんなで音読したあと、説明文の学習に慣れてきたのか、見つけた文章を声に出して読んだり、線を引いたりし、学習シートに書きこむ子供たち。

教科書に記述されている事柄は一通り学習シートに書きこんだが、教科書の文章を補う役目をしてるのがカラーで掲載されている写真。この写真から、まだまだ、このはちょうのかくれ方について学習できる。そこで、次のように続けた。

2 二枚の写真を見比べ「羽を広げていたのに、なぜとじたのか」を考える。

学習シートに記入後、再び二枚の拡大カラーコピーを見比べた。二枚の写真は、同じ場所の、同じこのはちょうであることに気づいてほしいのだが、子供たちは気づいていない。



(先生)「この二枚の写真のこのはちょうは、同じこのはちょうなのかな？」

(子供)「同じだよ、きっと!」「(二枚の写真を見比べ) 同じだ! だって、この葉っぱの形がみんなそっくり!」

(先生)「羽を広げていたのに、なぜ、とじたのかな？」

(子供)「かくれるから!」「敵がきたから!」「敵がきたら食べられちゃうから! 命が危ない!」「枯れ葉とそっくりでまちがうくらいだから見つからないかも!」

「羽を広げていたのに、なぜ、とじたのかな?」という教師の問いかけが非常に有効であった。

### 3 このはちょうの吹き出しを考え、交流する。

学習シートの吹き出しの活用の仕方であるが、本時は学習したことを自分でまとめるために位置づけてある。学習の初めの部分で使用して、問題意識が生まれるような学習シートの吹き出しの活用の



仕方もある。従って、常に本時の目標と照らし合わせて活用の仕方に留意する必要がある。

子供たちは、敵の存在を感じたときに自分の身を守る「このはちょう」の行動に感動し、教科書に写真が掲載されている五匹の虫たちへ興味・関心を持ち始めた。